

# 平成 25 年の全数把握対象疾患

平成 25 年の全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。

## 1. 一類感染症

届出はなかった。

## 2. 二類感染症

結核が 343 例の届出があった。昨年の 425 件から大きく減少し、一昨年並となった。類型は、患者 243 例、無症状病原体保有者 91 例、疑似症患者 8 例及び感染症死亡疑い者の死体 1 例であった。患者の病型は、肺結核が 184 例、その他の結核(結核性胸膜炎、リンパ節結核等)が 52 例、肺結核及びその他の結核が 7 例であった。全届出例の年齢階層は、10 歳未満 15 例、10 歳代 9 例、20 歳代 19 例、30 歳代 25 例、40 歳代 44 例、50 歳代 25 例、60 歳代 44 例、70 歳代 69 例、80 歳代 77 例、90 歳代 16 例で、80 歳代が最も多く、70 歳以上が全体の 47.2%を占めていた。別添に概要を記載する。

## 3. 三類感染症

細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 30 例の届出があった。

細菌性赤痢 1 例は 40 歳代男性で、菌型が *S.sonnei*、感染地域はインドであった。

腸管出血性大腸菌感染症は、昨年の 17 例から増加した。類型は、患者 24 例、無症状病原体保有者が 6 例で、その年齢階層は、10 歳未満が 2 例、10 歳代が 5 例、20 歳代 5 例、30 歳代 6 例、40 歳代 2 例、50 歳代 2 例、60 歳代 6 例、70 歳代 1 例及び 80 歳代 1 例であった。血清型・検出病原体は、不明が 1 例あった。この不明事例は血清抗体陽性で届出されている 30 歳代女性で、溶血性尿毒症症候群(HUS)を発症している。別添に概要を記載する。

## 4. 四類感染症

チクングニア 1 例、デング熱 2 例、マalaria 2 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 12 例の届出があった。

チクングニア熱は、平成 23 年 2 月より全数報告対象疾患となっており、本県で初めての届出となった。患者は、20 歳代女性で、感染推定地域はフィリピンとされている。

デング熱 2 例の病型はデング熱型で、ともに「動物・蚊・昆虫等からの感染」とされている。3 月届出の 1 例は 20 歳代女性、2 月にタイ、カンボジア、ベトナムで感染(推定)、10 月届出の 1 例は、40 歳代男性、9 月末にインドネシアジャカルタで感染(推定)とされている。

マalaria 2 例の病型は、ともにマalaria熱型で、6 月 15 日発病の 40 歳代女性と 6 月 16 日発病の 70 歳代女性であった。ともに、ケニア滞在中の動物・蚊・昆虫等からの感染が原因とされている。70 歳代女性は DIC を発症した。

ライム病は、本県での初めての届出である。患者は 30 代男性で、6 月下旬の北海道でのマダニ刺咬が原因と確定されている。

レジオネラ症 12 例の病型はすべて肺炎型で、男性が 10 例(60 歳代 6 例、70 歳代 2 例、80 歳代 2 例)女性が 2 例(80 歳代及び 90 歳代それぞれ 1 例)となっている。推定感染経路は水

系感染が 5 例、塵埃感染が 1 例、不明が 6 例となっている。

## 5. 五類感染症

アメーバ赤痢 8 例、ウイルス性肝炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 8 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 8 例、ジアルジア症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 9 例、梅毒 8 例破傷風 2 例、風しん 185 例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症 6 例、腸管外アメーバ症 2 例であった。その年齢階層は、男性が 20 歳代、30 歳代、40 歳代がそれぞれ 1 例、50 歳代が 3 例、70 歳代 1 例、女性が 80 歳代 1 例であった。感染原因は、経口感染が 2 名、性的接触 2 名、不明 4 例であった。

ウイルス性肝炎 2 例は、20 歳代と 40 歳代のそれぞれ男性で、ともに B 型、推定感染経路は性的接触であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 8 例の病型は古典型 5 例、医原性 1 例、家族性 1 例、その他 1 例であった。年齢階層は、男性が 60 歳代 2 例、70 歳代 3 例で、女性が 40 歳代、60 歳代、70 歳代それぞれ 1 例であった。40 歳代女性が医原性で、1987 年に使用されたヒト乾燥硬膜が感染原因と推定されている。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例は、50 歳代男性、血清群は A 群であった。

後天性免疫不全症候群 8 例の病型は、AIDS 4 例、無症候性キャリア 4 例であった。すべて男性で、20 歳代 1 例、40 歳代及び 50 歳代がそれぞれ 2 例、60 歳代 1 例、70 歳代 2 例であった。感染原因・感染経路は、性的接触 6 例(同性間 5 例、不明 1 例)、輸血(20 年以上前ブラジルで)1 例、その他(カミソリの使い回し)1 例であった。別添に概要を記載する。

ジアルジア 1 例は 20 歳代男性で、発病前 2 年間のエクアドル渡航中の経口感染が感染経路と推定されている。

侵襲性肺炎球菌感染症 9 例は、男性が 10 歳未満 1 例、60 歳代 1 例、70 歳代 2 例で、女性が 50 歳代 2 例、60 歳代 1 例、80 歳代 2 例であった。5 月とその前後に発病しているのが 6 例、12 月に発病しているのが 3 例で、季節性があるように見える。感染経路は、飛沫感染が 3 例、接触感染が 1 例、不明が 5 例であった。

梅毒 8 例の病型は早期顕症梅毒 3 例(I 期 1 例、II 期 2 例)、無症候 5 例であった。性別、年齢階層は、男性が 30 歳代及び 50 歳代それぞれ 2 名、女性が 30 歳代、50 歳代、60 歳代及び 70 歳代それぞれ 1 名、感染経路は性的接触が 5 例、不明 3 例であった。

破傷風は平成 19 年(2007 年)以来の患者発生であった。40 歳代及び 50 歳代の男性で、2 例とも診断方法は臨床症状からの診断であった。

風しんは 184 例と昨年に比べて大きく増加した。なお、診断日 12 月 31 日の 1 例は含まない。全国で平成 24 年から流行の始まった風しんは、県内では平成 24 年 9 月には終息したかに見えたが、平成 25 年に入ると報告が始まり、その後徐々に増加、5 月には 73 例/月まで増加した。風しんで最も危惧されるのは、先天性風しん症候群の発生である。幸い、平成 26 年 9 月現在まで、本県では先天性風しん症候群の届出は無い。別添に概要を記載する。

表1 全数把握対象疾患報告状況

調査年	疾患名	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成25年 全国
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	痘そう						
	南米出血熱						
	ペスト						
	マールブルグ病						
二類	ラッサ熱						
	急性灰白髄炎						1
	結核	371	287	361	424	344	27,086
	ジフテリア						
	重症急性呼吸器症候群						
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)						
	コレラ						4
	細菌性赤痢	2	2		5	1	143
	腸管出血性大腸菌感染症	50	53	24	17	30	4,044
	腸チフス		1				65
四類	パラチフス						50
	E型肝炎						127
	ウエストナイル熱						
	A型肝炎	1	2				128
	エキノコックス症						20
	黄熱						
	オウム病	1					8
	オムスク出血熱						
	回帰熱		1				1
	キャサヌル森林病						
	Q熱						6
	狂犬病						
	コクシジオイデス症						4
	サル痘						
	重症熱性血小板減少症候群						48
	腎症候性出血熱						
	西部ウマ脳炎						
	ダニ媒介脳炎						
	炭疽						
	チクングニア熱						1
	つつが虫病		2		1		344
	デング熱		4		5	2	249
	東部ウマ脳炎						
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)						
	ニバウイルス感染症						
	日本紅斑熱						175
	日本脳炎						9
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
	鼻疽						
	ブルセラ症						2
	ベネズエラウマ脳炎						
	ヘンドラウイルス感染症						
	発しんチフス						
ポツリヌス症							
マラリア				1	2	48	
野兔病							
ライム病					1	20	
リッサウイルス感染症							
リフトバレー熱							
類鼻疽						4	
レジオネラ症	4	1	9	8	12	1,124	
レプトスピラ症		1				29	
ロッキー山紅斑熱							
五類	アメーバ赤痢	9	11	11	6	8	1,047
	ウイルス性肝炎	1	1		1	2	288
	急性脳炎	1	1				364
	クリプトスポリジウム症						19
	クロイツフェルト・ヤコブ病		3	1	3	8	207
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4		1	1	1	210
	後天性免疫不全症候群	13	16	12	11	8	1,584
	ジアルジア症	1		1		1	82
	侵襲性インフルエンザ菌感染症						108
	侵襲性髄膜炎菌感染症						23
	侵襲性肺炎球菌感染症					9	1,000
	先天性風しん症候群						32
	梅毒	2	3	6	6	7	1,236
	破傷風					2	128
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1				55
	風しん	2		1	18	184	14,362
麻しん	3	3	2			230	
髄膜炎菌性髄膜炎※				1		2	
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)※※	305					
指定感染症	鳥インフルエンザ(H7N9)※※※						

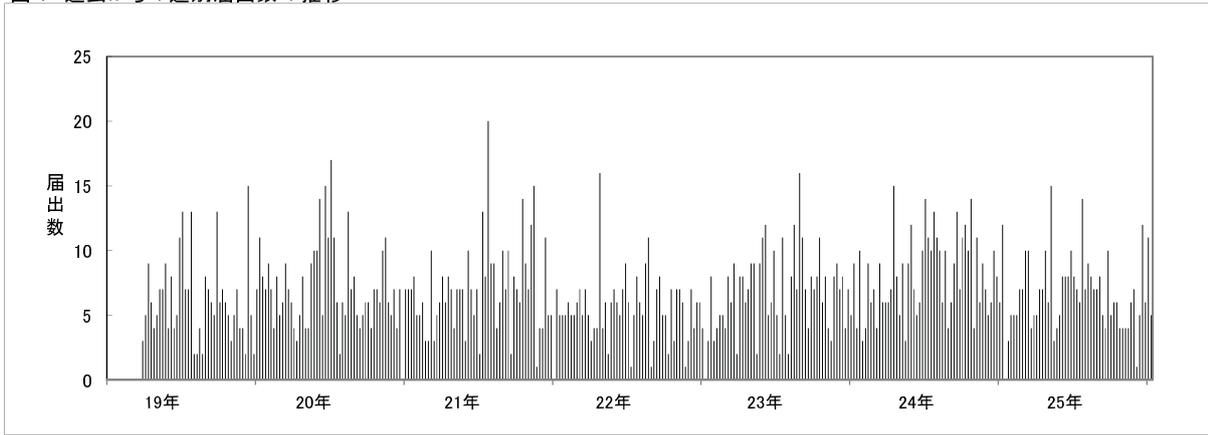
※平成25年4月1日からは、侵襲性髄膜炎菌感染症として届出  
 ※※全数把握対象としたのは、平成21年4月26日～7月27日まで  
 ※※※平成25年5月6日から指定感染症

ゼロ値は表示していない

別添

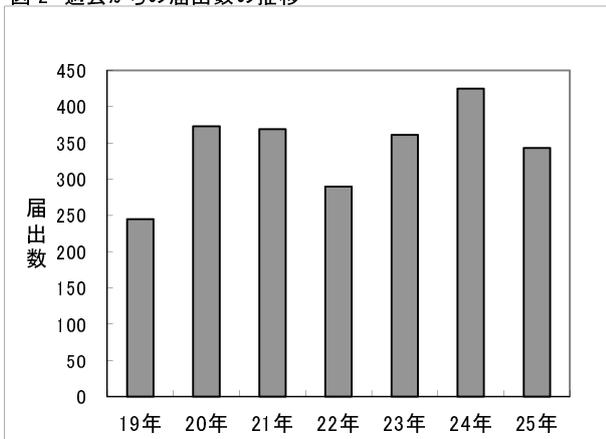
### 結核

図1 過去からの週別届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図2 過去からの届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図5 週別届出数

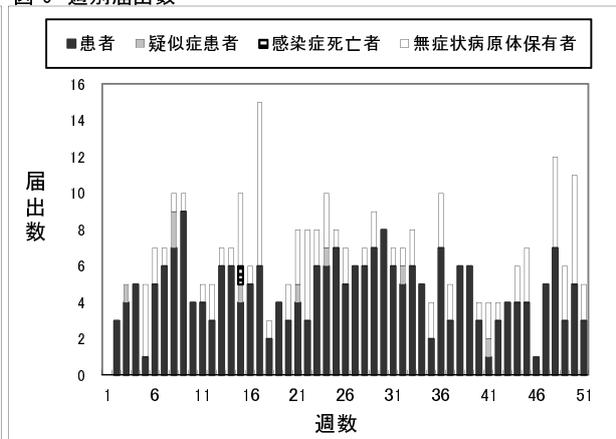


図3 年齢別届出数

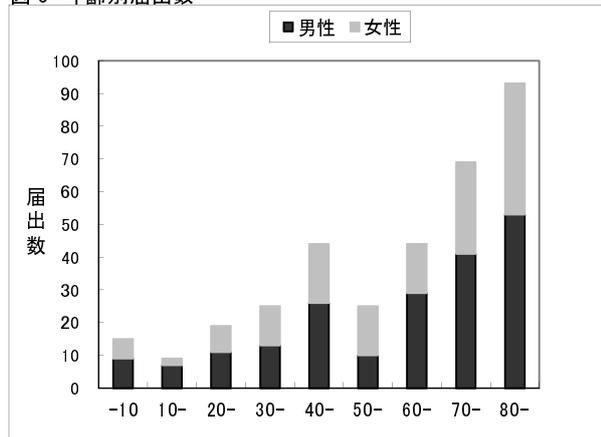


図6 病型別

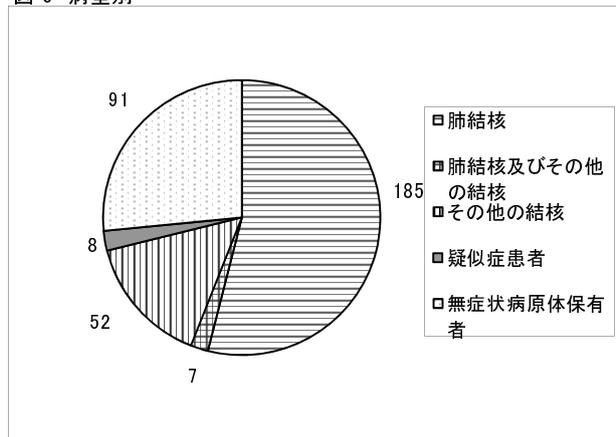
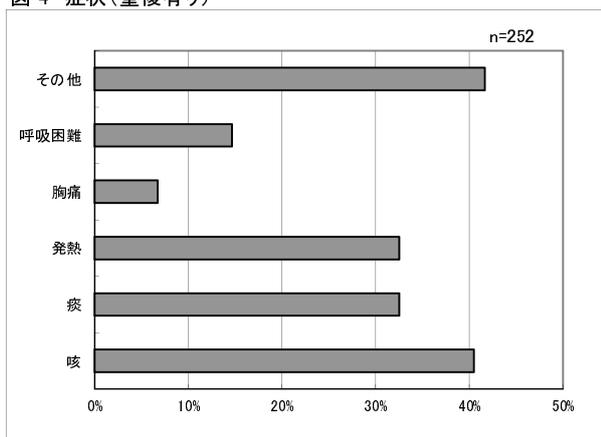


図4 症状(重複有り)



### その他

感染地域(推定含む)  
県内: 236例  
国内(県外・不詳): 105例  
海外: 2例

別添

腸管出血性大腸菌感染症

図1 過去からの週別届出数の推移

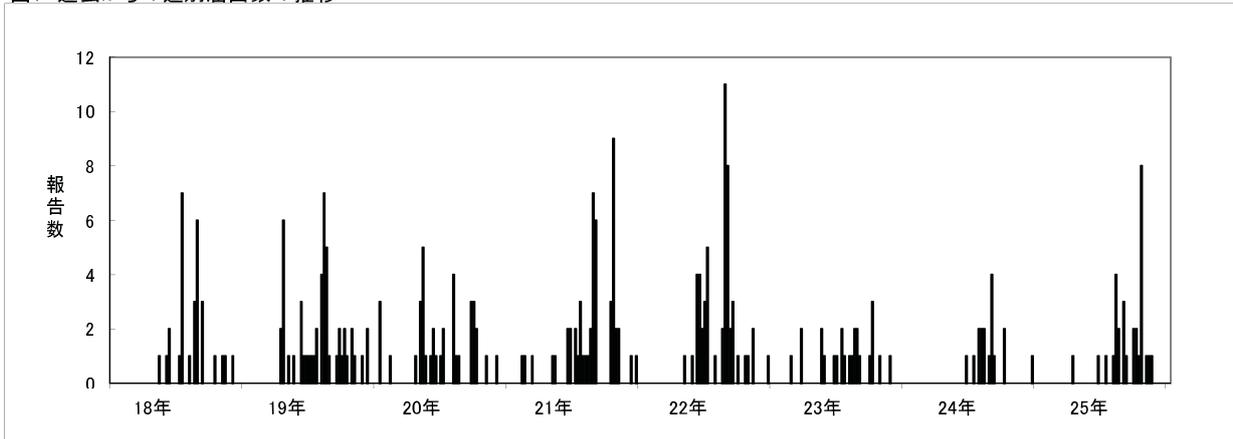


図2 過去からの届出数の推移

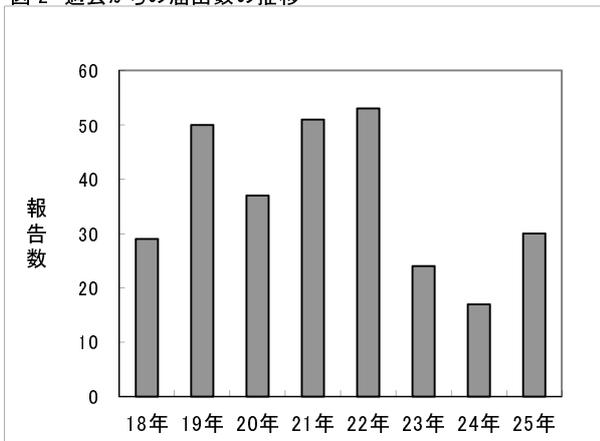


図5 週別届出数

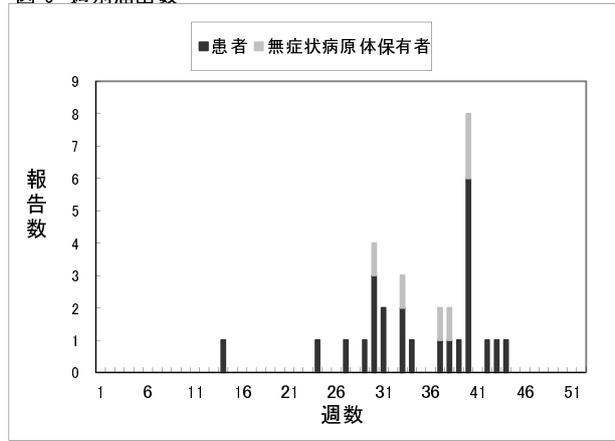


図3 年齢別届出数

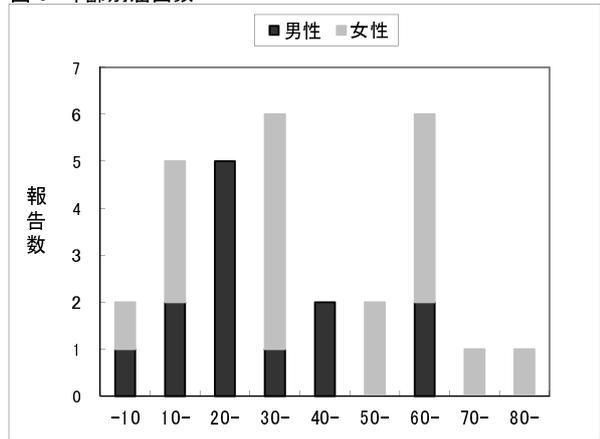


図6 血清型別患者報告数

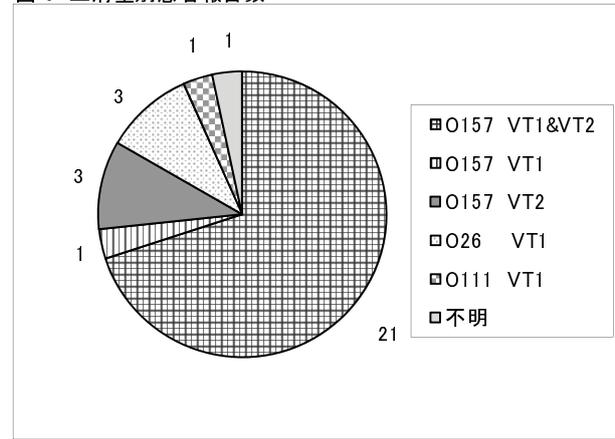
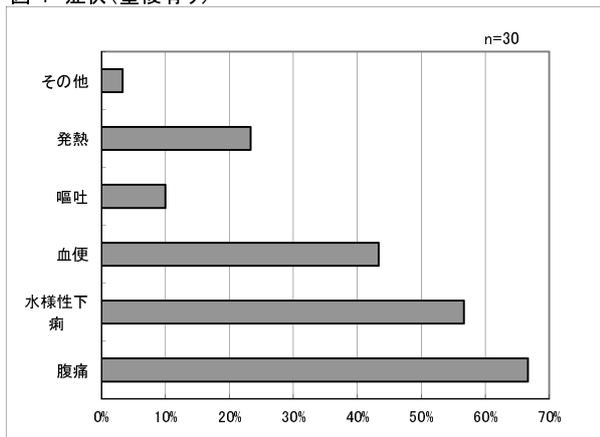


図4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定を含む)

県内 20例  
 県外 7例  
 不明 3例

感染経路(推定含む)

経口感染 15例(うち4名に焼き肉あり、またうち2名に生肉あり)

接触感染 2例  
 不明 13例

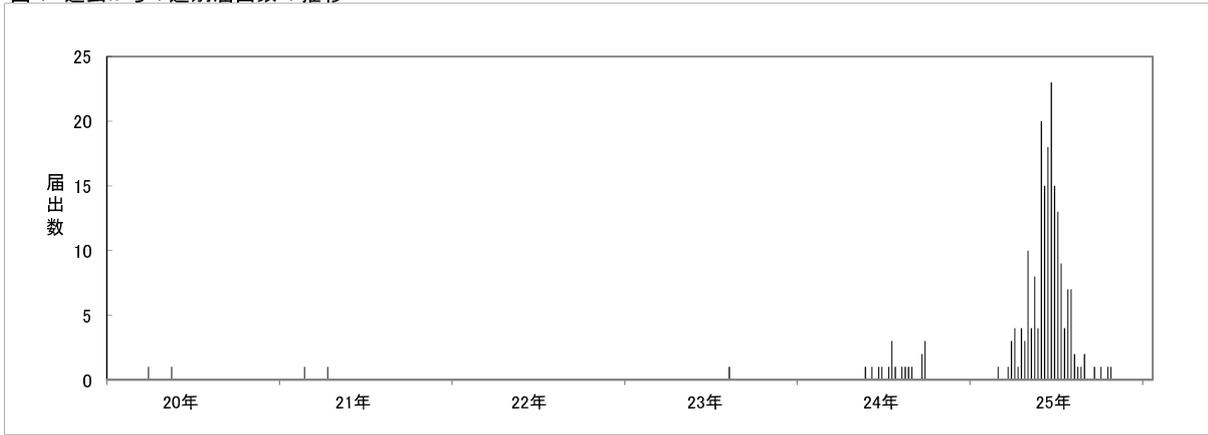
溶血性尿毒症症候群(HUS)を発症した30代女性が1名、溶血性貧血、急性腎不全、痙攣、昏睡、脳症の症状発現。血清抗体検出での届出で、血清型は不明。5日目の焼き肉が原因と推定されている。



別添

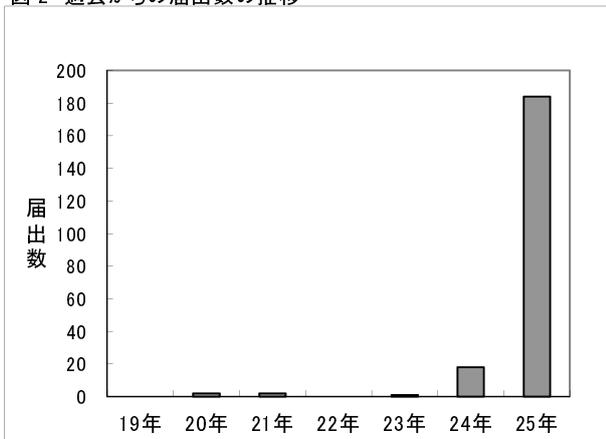
風しん

図1 過去からの週別届出数の推移



※平成20年1月1より、全数報告対象疾患

図2 過去からの届出数の推移



※平成20年1月1より、全数報告対象疾患

図5 週別届出数

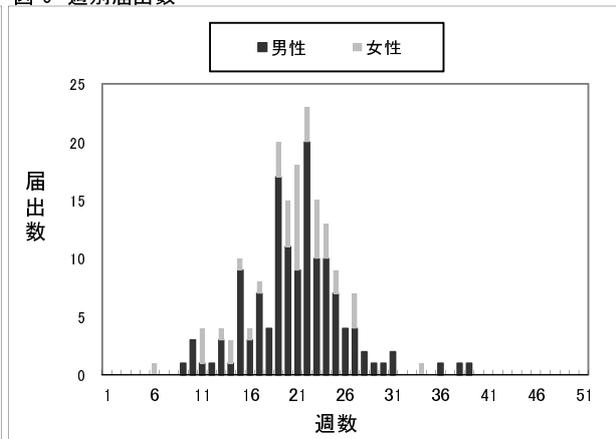


図3 年齢別届出数

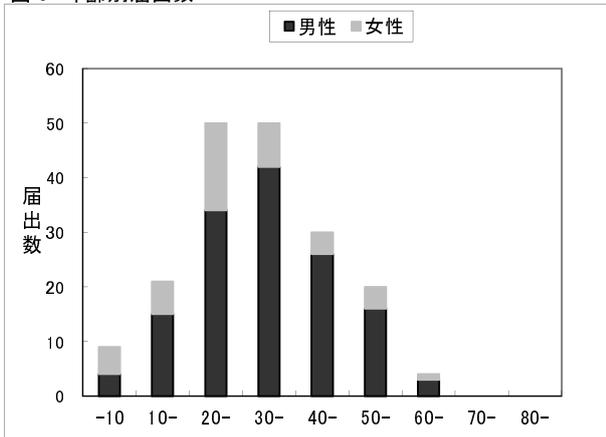


図6 年齢別・性別・ワクチン接種歴別風しん患者数

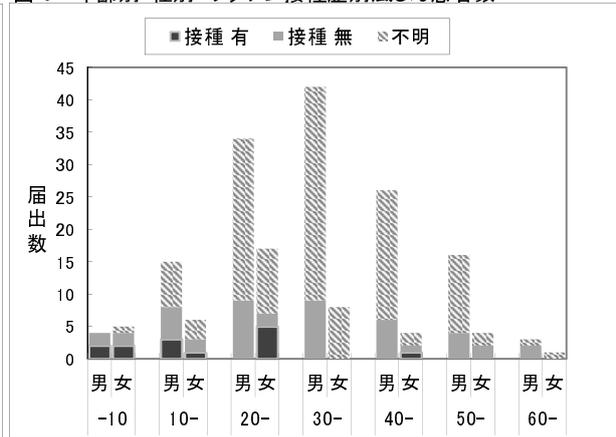
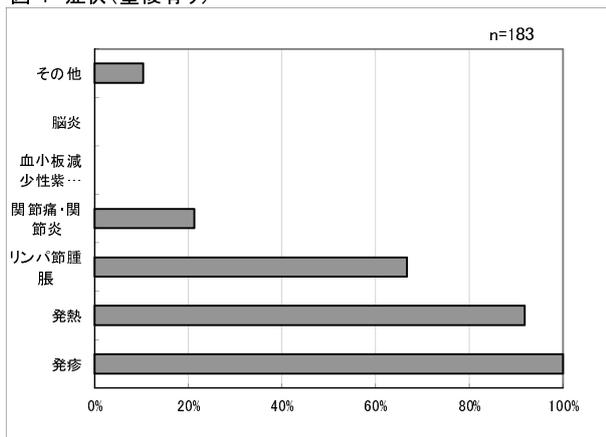


図4 症状(重複有り)



その他

検査診断例の1例が、症状無し。  
 症状その他は、  
 咽頭炎(咳・鼻炎含む)8例  
 結膜炎(結膜充血・眼脂を含む)7例  
 頭痛(頸部痛)2例  
 口内炎1例  
 全身倦怠感1例  
 白血球・血小板減少1例

感染経路の記載にあるものは推定も含め38例で、職場での感染の記載が多い  
 家族から 18例(父5例、夫4例、子3例、兄弟等5例、他1例)  
 職場・学校で 17例(職場15例、学校2例)  
 交通機関で 3例